

【OIE情報】ウクライナにおけるアフリカ豚コレラの発生について

平成26年1月9日
動物衛生課

ウクライナ(ロシア国境※)におけるアフリカ豚コレラの発生について、OIEへ報告(緊急報告)がありましたのでお知らせいたします。

なお、ウクライナにおける直近のアフリカ豚コレラのOIEへの報告は、2012年7月31日付けのザポリージヤ州における豚の発生報告(同年7月30日発生)です。

※動物衛生課注:ロシアは2013年12月25日付けでアフリカ豚コレラの発生の終報をOIEに提出している。

【出典】

OIEウェブサイト:2014年1月8日付け

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=14625

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

【概要】

- ・発生数:1件(緊急報告)
- ・発生日:2014年1月6日
- ・OIEへの報告日:2014年1月8日

【発生状況】

- ・発生場所:ルハーンシク州 Stanychno-Luganskyi, Forester-hunting ground "Pischane"
(ロシアとの国境から4mの地点)

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
野生イノシシ		1	1	0	0

【疫学情報】

- ・感染源:不明又は調査中
 - ・死亡した野生イノシシは、ウクライナ海岸付近の川の中、国境線から4mの地点で発見された。
(本川の中央を国境線が通っている。)
- (動物衛生課注:ロシアは2013年12月25日付けでアフリカ豚コレラの発生の終報をOIEに提出している。)

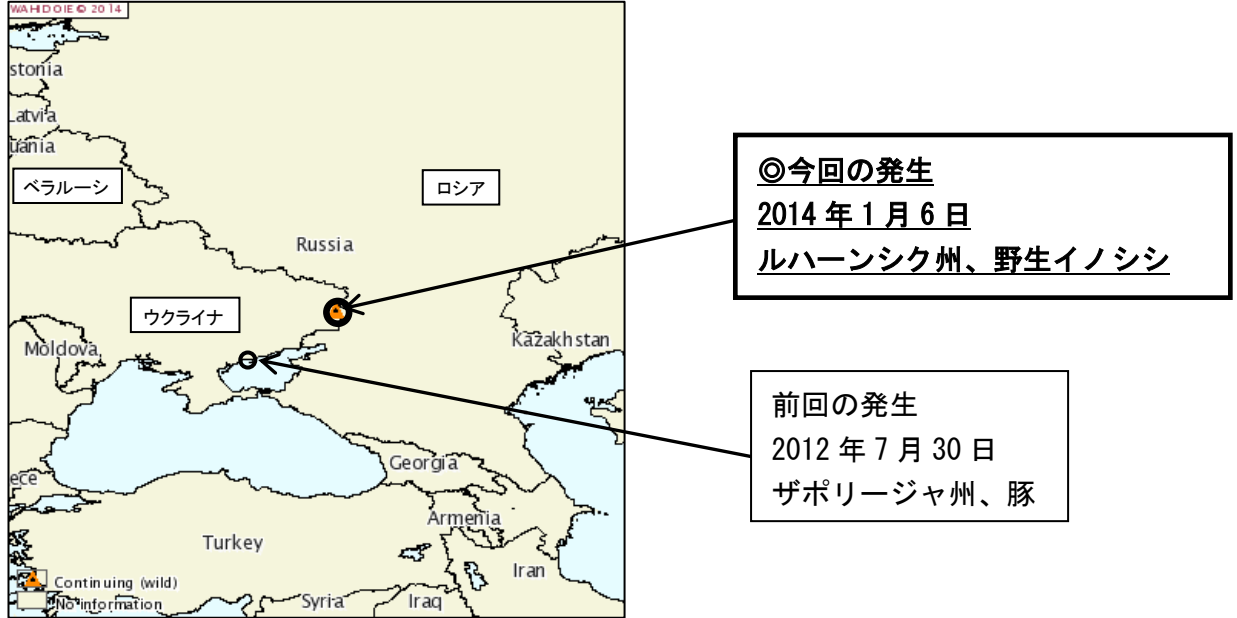
【対応】

- ・感染源となる野生動物のコントロール
- ・隔離
- ・国内における移動制限
- ・スクリーニング
- ・ゾーニング
- ・ワクチン接種なし
- ・患畜を治療対象としない

【診断】

- ・検査施設: State Scientific Research Institute of Veterinary Medicine and Veterinary and Sanitary Expertise (国立研究所)
- ・検査方法: リアルタイムPCR(陽性、2014年1月6日)

【発生状況地図】



(参考1: アフリカ豚コレラとは)

アフリカ豚コレラウイルス(二本鎖DNAをゲノムに持つアスファウイルス科アスファウイルス属)感染による豚の熱性伝染病。臨床症状および病理所見は豚コレラと類似。甚急性では突然死亡、急性では発熱(40～42℃)、食欲不振、粘血便(ねんけつべん)を呈し、100%死亡する。

感染豚や実験感染豚にはこのウイルスに対する中和抗体が産生されないため、本病に対する有効なワクチンはない。スペインやポルトガルなどでは大規模な殺処分等による防圧で本病を撲滅した。有効な治療法は存在しない。

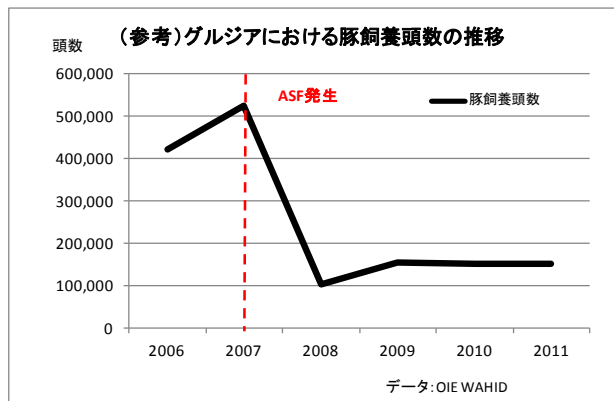
我が国では、法定伝染病に指定。

国際連合食糧農業機関(FAO)などの国際機関が「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」と定義する「越境性動物疾病」の代表例である。

本病は、アフリカ地域で常在的に発生が見られるが、近年、ロシアのコーカサス地方等での続発が報告されている。

(参考2:コーカサス地方・東欧におけるアフリカ豚コレラの発生)

- ①2006年末頃、グルジアで発生。コーカサス地方に侵入(黒海に面するポチ港を通じて、南アフリカからグルジアに侵入)
- ②グルジアでは2007年に約50万頭の豚が飼養されていたが、2008年には約10万頭に減少。



- ③2007年8月にアルメニア(豚)、2007年11月にロシア(チェチン共和国)(野生イノシシ)、2008年1月にアゼルバイジャン(豚)で発生。
 - ④2012年7月にウクライナ(豚)、2013年6月にベラルーシ(豚)で発生。
 - ⑤2013年7月、EUはベラルーシでのアフリカ豚コレラの発生に関し声明を発表。
- ※これまでにロシアでは、アフリカ豚コレラの発生によって60万頭以上の豚が死亡又は淘汰されたとの報告がある。

※コーカサス地方では、口蹄疫(A型)も続発している。

※2014年2月、コーカサス地方に位置するロシアのソチにおいて、冬季オリンピックが開催予定。

動物検疫所では、ソチオリンピック開催等にあわせて、キャンペーンを実施中

URL: <http://www.maff.go.jp/aqs/topix/campaign.html#sochi>

